

三重県における高校生ビブリオバトルの参加側と普及側の立場から見てきたこと

岡野 裕行, 河野 亜美

Observations from the Perspective of Promotion and Participation in Bibliobattles Involving High-School Students in Mie Prefecture, by OKANO Hiroyuki and KAWANO Ami.

2013年に始まった三重県の高中生ビブリオバトル大会を事例として、その参加者(高校生)と運営協力者(大学生)の両方の立場を経験した者と、大会実施の初期から普及活動を進めてきた者(大学教員)の視点を交えながら関係者が大会形式によるビブリオバトルの開催経緯と実態を報告する。実施にあたりどのように目的を設定し、相互に協働することで実現に至ったのか、その要因を考察する。その上で、大会形式によるビブリオバトルを教育目的で実施することの意義や、継続的かつ安定期に運営する際の課題を指摘する。

1. はじめに

本稿では、2013年に始まった三重県の高中生ビブリオバトル大会を事例として、ビブリオバトルの普及活動を進める側(主催者及び協力者)と、大会に参加するバトラー側(高校生)にいた者が、それぞれどのようなことを考えながら大会に関わっていたのかについて報告する。その報告を踏まえ、大会形式によるビブリオバトルを、ある地域内に教育目的で普及することの意義とその課題について述べる。

まずは皇學館大学ビブリオバトルサークル「ビブロフィリア」の設立に関わるとともに、三重県を中心にビブリオバトルの普及活動を進めている岡野の見解を記す。続けて、三重県の高中生ビブリオバトル大会に、バトラーとして出場した経験を持つ河野の回想と見解を記す。河野は高校卒業後に皇學館大学へと進学し、大学生の立場から三重県の高中生ビブリオバトル大会の運営にあたっている。バトラーとしての出場者側(高校生)と大会運営側(大学生)の両方の立場から、同一大会に関わり続けてきた経験を持つという珍しい立場にいる。河野の回想は、

岡野と三重県教育委員会が期待していたビブリオバトル大会の教育的効果が、実際にバトラーとして参加していた高校生に対してどういった影響を与え、その後にビブリオバトルへの考え方をどのように変えてきたのかを知るための貴重な記録である。河野の報告により、岡野が眺めてきた三重県の高中生ビブリオバトル大会の様子を補う視点を示すことができる。その上で、三重県の高등학교における大会形式のビブリオバトル普及の要因についてまとめる。そして最後に、特定地域を対象としてビブリオバトルを普及させることの意義、継続的かつ安定的にビブリオバトル大会の運営をするための課題など、より一般化した視点から本稿の結論を述べる。

なお、第3章に示す河野の回想部分は、客観的記述がやや困難なため、主観的な表現となるが、この部分のみ「私」を主語として語るものとする。

2. ビブリオバトルの普及活動をどのように展開してきたか(岡野)

まずは三重県におけるビブリオバトル普及活動について、初期からその普及側の立場にいた岡野の見解を、①全国レベルの動向、②三重県教育委員会の動向、③皇學館大学の動向、④個人レベルの動向、という四つの観点に分けて述べる。

2020年7月29日受理

おかの ひろゆき 皇學館大学文学部国文学科准教授

かわの あみ 皇學館大学文学部国文学科4年

2.1 全国レベルの動向

三重県固有の事例を取り上げる前に、その前提条件となる全国レベルの動向を確認する。

- A) 2007年、谷口忠大氏がビブリオバトルを考案する¹⁾。
- B) 2010年、谷口氏らがビブリオバトル普及委員会を設立する²⁾。また、東京都主催のもとに、大学生・大学院生による全国大会「ビブリオバトル首都決戦」が始まる³⁾。
- C) 2012年、ビブリオバトルが「Library of the Year 2012」の大賞を受賞する⁴⁾。
- D) 2013年、文部科学省が「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」のなかでビブリオバトルに言及する⁵⁾。谷口忠大著『ビブリオバトル：本を知り人を知る書評ゲーム』を始めとして、ビブリオバトルの関連本が出版されるようになる。
- E) 2014年、大学生による全国大会の主催者が東京都から活字文化推進会議に移り、名称も「全国大学ビブリオバトル」に変更される。併せて高校生による全国大会「全国高等学校ビブリオバトル」も始まる⁶⁾。ビブリオバトル普及委員会が、毎年恒例のイベントとして「ビブリオバトル・シンポジウム」を開始する⁷⁾。
- F) 2015年、生駒市の主催で「ビブリオバトル全国大会 in いこま」が始まる⁸⁾。
- G) 2016年、ビブリオバトルが国語の教科書や教師用指導書に掲載され始める⁹⁾。「第10回高橋松之助記念文字・活字文化推進大賞特別賞」を受賞する¹⁰⁾。ビブリオバトル普及委員会が、毎年恒例のイベントとして「Bibliobattle of the Year」を開始する¹¹⁾。
- H) 2017年、活字文化推進会議の主催のもとに、中学生による全国大会「全国中学ビブリオバトル」が始まる¹²⁾。

上にまとめた一連のできごとは、ビブリオバトルが全国的な規模で普及していく際の土台となるものであり、三重県の普及過程においても、これらの動向からの影響を受けた部分が少なくない。

2.2 三重県教育委員会の動向

(1) 三重県の高校生ビブリオバトル大会の歴史

三重県の高校生ビブリオバトル大会は、三重県教育委員会の主催で2013年から始まっており、以下の

ような流れで実施・展開されている¹³⁾。

- A) 高校生ビブリオバトル倉田山決戦2013
2013年11月16日(土) 会場：皇學館大学
※参加校を伊勢志摩地域に限定して実施
- B) 高校生ビブリオバトル三重決戦2014
2015年2月8日(日) 会場：皇學館大学
トークゲスト：加藤利幸氏
- C) 高校生ビブリオバトル三重決戦2015
2015年12月13日(日) 会場：皇學館大学
トークゲスト：川上未映子氏
※河野が高校2年生で出場した大会
- D) 高校生ビブリオバトル三重決戦2016
2016年12月11日(日) 会場：皇學館大学
トークゲスト：出口治明氏
- E) 高校生ビブリオバトル三重決戦2017
2017年12月10日(日)
会場：三重県生涯学習センター
※河野が大学1年生で司会を担当した大会
- F) 高校生ビブリオバトル三重決戦2018
2018年12月8日(土)
会場：三重県生涯学習センター
※河野が大学2年生で司会を担当した大会
- G) 高校生ビブリオバトル三重決戦2019
2019年12月22日(日)
会場：三重県生涯学習センター
※河野は「全国大学ビブリオバトル2019」の本戦出場と日程が重なったために不参加

このうち、初期の大会であるA～Dは、実施会場として皇學館大学が選ばれている。これは、①使い慣れた施設のため大会運営を担うビブロフィリアの学生たちが協力しやすくなる、②同時進行で準決勝を実施するために必要となる複数の教室が確保できる、③決勝戦実施のために十分な広さを持つ大教室を確保できる、④参加する高校生バトラーの全員がホーム会場にならないために公平性を保ちやすい、などの点を考慮したためである。また、会場を提供する皇學館大学にとっても、非公式に実施するオープンキャンパスとして、大学PRの機会へとつなげることができるというメリットがある。

(2) 三重県の高校生ビブリオバトル大会を始める

三重県の高校生ビブリオバトル大会を企画した中心人物は、その当時三重県教育委員会にいた伊野美穂子氏である。谷口忠大著『ビブリオバトル：本を

知り人を知る書評ゲーム』が2013年4月に発売され、同年5月に文部科学省「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されたことで、ビブリオバトルへの注目度が高まり始めた時期である。同年7月に、「ぜひ三重県で高校生大会を実施したい」と伊野氏が岡野に相談を寄せてきた。

打ち合わせの結果、2014年度からビブリオバトルの三重県大会を開催する計画を進めることになったが、県内全域で実施するための予算の獲得も念頭に置き、まずは小規模でも2013年度のうちに何らかの活動実績を残すことを目指した。そこで2013年度は、皇學館大学を会場として、伊勢志摩地域の高等学校に限定した地域版を実施することになった¹⁴⁾。

2013年度の試験的導入が一定の成果を得たことで、翌2014年度からは三重県内を6ブロック(北勢・中勢・南勢・松阪・伊賀・東紀州)に分け、県内全域に予選会を拡張している¹⁵⁾。これ以降、毎年恒例のイベントとして、三重県内の高等学校に定着することになる¹⁶⁾。

2.3 皇學館大学の動向

次に、皇學館大学のビブリオバトルへの取り組みが、どのように展開されてきたのかを確認する。

(1) ビブロフィリア創設と初期の学内活動

皇學館大学におけるビブリオバトルのうち、特に初期の動向は、以下のとおりである。

- A) 2011年11月、岡野が主催する皇學館大学国文学会・文学館研究部会において、当時の1年生を対象として、小規模ながらも学内で初めて実施する¹⁷⁾。
- B) 2012年2月、岡野が担当する当時の1年生向けの講義のなかで小規模に実施する¹⁸⁾。
- C) 2012年4月、岡野が担当する当時の3年生ゼミのなかで小規模に実施する。
- D) 2012年5月、皇學館大学の保護者会「夢の会」にて、全教職員・来校した保護者の前で初めて大規模に実施する¹⁹⁾。これにより、学内の教職員全員にビブリオバトルが周知される。
- E) 2012年7月、岡野が顧問となりビブロフィリア(ビブリオバトルサークル)を創設する²⁰⁾。
- F) 2012年8・9月、ビブロフィリアのメンバーを中心に、「ビブリオバトル首都決戦2012」の地区予選と地区決戦を開催する²¹⁾。

岡野、河野：三重県における高校生ビブリオバトルの参加側と普及側の立場から見てきたこと

- G) 2012年11月、皇學館大学「倉陵祭」において、ビブロフィリアのメンバーを中心に、「教員ビブリオバトル」を実施する²²⁾。

このうち特に重要となるのは、ビブロフィリアという学生団体の創設であり、これによってその後の学内外での積極的な活動の展開が容易なものになっている。これはCの実施後に、当時の3年生ゼミのメンバーが中心となり、新規団体承認のための最低必要人数である3人から活動を始めたものである²³⁾。団体設立以後には、A・Bの際にビブリオバトルを体験した学生たちの一部も、早い段階でビブロフィリアのメンバーに加わっている。

(2) ビブロフィリアによる学外活動(皇學館大学の後押しによる地域連携活動)

ビブロフィリアが動き出した2012年度のうちは、新規メンバーを徐々に増やししながら、皇學館大学附属図書館内で地道に活動を続けてきた。そして設立から2年目となる2013年度以降に、学外活動のきっかけをつかむようになる。これには、①地域連携活動、②教育普及活動、という二つの流れがある。ここではまず、①地域連携活動について述べる。

- H) 2013年6月、東海4県の大学による「ビブリオバトル東海決戦2013」(名古屋市)を、ジュンク堂ロフト名古屋店で実施する²⁴⁾。
- I) 2013年11月、「ビブリオバトル@伊勢銀座新道商店街」(伊勢市)を実施する²⁵⁾。
- J) 2014年10月、「ビブリオバトル@MieMu」(津市)を三重県総合博物館で実施する²⁶⁾。
- K) 2015年10月、「ビブリオバトル@伊勢河崎一箱古本市」(伊勢市)を実施する²⁷⁾。

これらの地域連携活動を実現することができたのは、地元の伊勢志摩地域の各種団体との協力関係を、皇學館大学が強く押し進めていた時期に重なっていることが影響している。また、連携先の各種団体が積極的に協力してくれたことも、滞りなく学外活動が展開できた理由である。このうち、Hについては名古屋書店員懇親会(NSK)の協力のもとに、関係者が手弁当で実施したものである。また、年に1回のみの単年度予算ではあるが、IからKについては年度ごとに学外活動のための資金を大学から得たことで実現に至ったものである²⁸⁾。

(3) ビブロフィリアによる学外活動(三重県教育委員会との連携による教育普及活動)

もう一つの流れは、②教育普及活動を目的とした、三重県内の小中高等学校に出張してのデモンストレーションである。これは三重県教育委員会の発案によるもので、県内各地の小中高等学校からの派遣依頼を三重県教育委員会が窓口となって引き受け、ビブロフィリアの学生たちと連携し、日程の都合がつく学生メンバーがボランティアとして各校2・3人ずつ訪問するという形態をとっている²⁹⁾。

後述する河野の回想にも記しているように、2014年度にデモンストレーションを始めて以降、毎年数校ずつ小中高等学校からの学生派遣の依頼が寄せられており、継続的に学校訪問を実施している。

2.4 個人レベルの普及活動

岡野とビブリオバトルとの個人的な関わりのうち、特に重要な項目を並べると、以下のようになる。

- A) 2010年6月、ツイッターを介してビブリオバトルを知り、何らかの形でこの活動に関ろうと考え始める。また、本に関係するトピックスのひとつとして、図書館司書課程の講義のなかで紹介できるのではないかと構想する。
- B) 2010年12月、その当時に非常勤講師をしていた相模女子大学の講義で、岡野個人として初めてとなるビブリオバトルを実施する³⁰⁾。
- C) 2011年6月、情報メディア学会の第10回研究大会において、谷口氏と直接の面識を持つ³¹⁾。
- D) 2011年11月、谷口氏の誘いを受けて、ビブリオバトル普及委員会に加入する³²⁾。
- E) 2012年7月、ビブロフィリア(皇學館大学ビブリオバトルサークル)を設立する³³⁾。
- F) 2012年11月、「Library of the Year 2012」でビブリオバトルのプレゼンターを務める。
- G) 2013年6月、ビブリオバトル普及委員会の理事に就任する。
- H) 2013年7月、愛知県の学校図書館研究会において、岡野個人として初めてとなるビブリオバトルについての講習会講師を担当する³⁴⁾。
- I) 2015年6月、谷口氏に代わってビブリオバトル普及委員会の二代目の代表理事に就任する。

前項でも述べた通り、岡野が本格的にビブリオバトルに関わっていくのは皇學館大学に着任した2011年度以降である。しかし、その前年の相模女子大学

にて実施したBの経験がなかったとすると、Cの際に谷口氏と会話を交わさなかった可能性もある。もし面識がないままになっていた場合、谷口氏からビブリオバトル普及委員会に誘われたこともなかったはずであり、皇學館大学での積極的な導入にはつながらなかったようにも思える。

以上をまとめると、岡野個人としては、①ビブリオバトル普及委員会理事としての全国レベルのビブリオバトル普及活動、②皇學館大学ビブロフィリアを対象とした学生活動のサポート、③三重県教育委員会との連携による教育活動への協力、④各種団体との連携による地域連携活動への協力、という4種類の活動の方向性を意識するようになっている。このうち、③と④の活動は岡野が単独で取り組めるものではなく、基本的には②に示したビブロフィリアの学生メンバーの主体的な活動であり、学生たちの積極的な取り組みがその前提条件となっている。そのため、ビブロフィリアという団体をいかにして継続・発展させていくのかという問題意識は、顧問教員の立場として念頭に置くようにしている。

3. ビブリオバトルの受容から普及活動へ(河野)

私が初めてビブリオバトルという言葉に耳にしたのは、高校2年生(2015年)の頃であり、それに関わるようになって5年ほど経っている。高校生だった当時と現在では、ビブリオバトルに対する考え方も立場もまったく異なるものとなっている。以下、高校生時代の回想を含みながら、ビブリオバトルに対する個人的な心情の変化を述べる。

3.1 高校生の頃のビブリオバトル

高校生だった私にとって、ビブリオバトルは緊張の場でしかなかった。その当時は国語の授業の音読をするというだけでも心臓が早鐘を打ち、授業中はなるべく当てられないことだけを考えていた。

そんな私がビブリオバトルに関わるようになったきっかけは、高校2年生のときの図書委員会活動で、司書教諭の発案により行われた図書委員全員でのビブリオバトルである。このとき私も委員だったが、顔見知りの生徒たちとの人生初めてのビブリオバトルに、心が躍ったのを覚えている。幼い頃から自分の好きな物を人に勧めるのが好きだった私は、自身の天職を見つけたような気持ちであった。そのときのビブリオバトルでチャンプ本を獲得したことを

きっかけとして、私はその年の「高校生ビブリオバトル三重決戦2015」に出場することになった。結果は準決勝敗退だったが、私にとっては、生まれて初めて何かの代表となった記念の大会となった。

この頃の私は、ビブリオバトルをする間は終始手足の震えが止まらなかった。緊張して話す内容を忘れてしまうため、付箋とメモを大量に本に貼り、万全の準備をしてバトルに挑んでいた。今振り返ってみると、そのような状態でビブリオバトルをよく続ける気になったものだ、その当時の自分の決断に感心してしまう。

3.2 大学生になってからのビブリオバトル

(1) ビブロフィリアへの入部

2017年4月、私はかつて三重県の高校生ビブリオバトル大会の会場として訪れていた皇學館大学に入学し、ビブロフィリアというサークルに入部した。ビブロフィリアは三重県の高校生ビブリオバトル大会の運営に協力しており、私が出場した2015年度の大会でも、当時の先輩たちが司会進行を担当されていた。堂々とした大学生たちの振る舞いは、高校生の私にはとても輝かしく見えており、その姿を憧れの目で眺めていた。

しかし、入学直後にビブロフィリアの活動を訪れてみると、そこにいた部員は全員が3年生であった。話を聞いてみると、1年前(2016年度)の新入部員の勧誘がうまくいかなかったそうで、私の一つ上の学年に部員が誰もいなかったのである。そしてまた、その年の新入部員もたった一人私だけであった³⁵⁾。

それでもこのサークルに入部したことは、私の人生における大きなターニングポイントになっている。ビブロフィリアという活動の場を得たことは、私のビブリオバトルに対する印象を大きく変えることになった。月に一度行われるビブリオバトルは、いつもの決まったメンバー同士で、各々が好きな本を自由に持ち寄るアットホームなものであった。ビブリオバトルの雰囲気も飛び交う質問も実に緩やかなものであり、純粹に本をオススメしたいという気持ちと素朴な疑問ででき上がっていた。高校生時代の経験と比べるとその違いは明白で、サークルでの活動を繰り返すうちに、私にとってビブリオバトルはそれほど気負うものではなくなったのである。

(2) ビブリオバトルを運営する側に立つ

ビブロフィリアに所属したことで、高校生の頃には経験できなかったことにも関わるようになった。

一つ目は、三重県教育委員会の依頼により、三重県内各地の小中高等学校を訪れ、生徒たちの前でビブリオバトルのデモンストレーションを行うようになったことである。これは団体設立時の先輩たちから受け継いでいる活動であり、ビブロフィリアとして三重県内の学校教育活動に関わっていく貴重な機会でもある。教室や図書室で行うことが多いが、まるで講演会のように体育館の壇上に立ち、中学校の全校生徒・全教職員の視線を浴びながらビブリオバトルをしたこともある。今の自分が人前で話すことに過度な緊張を感じなくなったきっかけの一つになっている。

二つ目は、2019年12月22日に開催された「全国大学ビブリオバトル2019」の本戦に、三重県代表として出場したことである³⁶⁾。三重県内でしかビブリオバトルをしたことがなかった私にとって、そこには多くの発見があった。出場しているバトラーの予選会の地域の違いによって、発表の語り口は大きく変わっていた。発表のなかで注目している点も、バトラーごとに異なることを肌で感じ取った。また、普段はまったく違うことを学んでいる大学生たちが、ビブリオバトルを通して一つの場所に集まるという状況も新鮮だった。

三つ目は、三重県の高校生ビブリオバトル大会の司会・運営を手伝うようになったことである。私自身が高校生だった頃に、司会をしているビブロフィリアの先輩たちの姿を憧れの目で眺めていたように、大学生になった今の自分の立ち振る舞いが、高校生たちの心に残ってもらえたら嬉しい。高校生たちの緊張している様子をそばで眺めると、あの頃の自分の気持ちを思い出すが、本に対する熱意というものは、高校生も大学生も(おそらく社会人も)、それほど変わりはしないのではないかと感じている。

3.3 ビブリオバトルを通じた個人的な変化

(1) 司会をしながら考えたこと

三重県の高校生ビブリオバトル大会に関わることで、司会をする経験も増えてきた。その際には、場数を踏んで身につけたことを、運営のなかで少しでも活かすように意識している。

一つ目は、バトラーの話に対して、しっかりと相槌を返すことである。バトラー経験者なら理解でき

と思うが、目の前で自分の話を聞いている人たちの身体的な反応は、舞台に立つ人の心に大きく影響を及ぼすものである。自分のすぐそばで頷く人や笑う人がいるだけでも、バトラーは随分と話しやすくなる。自分の意見に賛同してくれる人の存在が、相槌という振る舞いによって視界に入ること、バトラーはとても心強い味方を得たと感じるができる。

二つ目は、質疑応答の時間において、自分から積極的にバトラーへ質問を投げかけることである。ビブリオバトルでは、発表時間も質問時間も公式ルールで明確に決まっており、規定の時間より短くなることはない。自分の発表後に質問の手が挙がらない空白時間が生じると、バトラーは自分の発表に自信が持てずに恐怖を感じてしまうこともある。とはいえ、初めてビブリオバトルを見る観客にとって、質問は気軽なものではなく、それなりにハードルが高い行為でもある。「自分の質問がバトラーの意に背いてしまうのではないか」「もしかしたら私の外れになるのではないか」「発表のなかで触れられていたのに自分が聞き逃してただけではないか」など、さまざまな心配が生じるため、なかなか手を挙げづらい。

また、三重県の高校生ビブリオバトル大会のバトラーたちは、あらかじめ原稿にまとめて発表の文言を暗記し、用意した言葉のすべてを語りきろうとする人が多いように感じている。大会形式の場合は事前にそれなりの準備が必要となるが、発表内容を簡潔にまとめすぎると、聴衆からの質問が生まれづらくなる。運営や司会進行を担う私たちが積極的に質問することで、「気になったことなら何でも気軽に尋ねて良い」という見本を示せるため、これは大切な心がけであると思っている。

(2) 大学生になって変化した心情

私が高校生のとき、過剰とも思えるほどに緊張していたのは、「皆の前で失敗する姿を晒したくない」「私の本に誰も投票しなかったらどうしよう」という理由があったと思う。しかし、今になって振り返ってみれば、そんなことはまったく気にしなくてよかった。私はお話しのプロではないのだから、完璧に筋道を立てて話す必要はない。私はアナウンサーではないのだから、多少囁んだり言葉がつかえたりしても、何も問題はない。私はお笑い芸人でもな

いのだから、話を聴いてくれている人たちを笑わせられなくても、まったく悪くないのである。

たとえ発表に失敗したと感じても、本人が気にするほど他人の記憶には残らないものである。大会形式のビブリオバトルを終えた後に残るのは、せいぜい「この本は以前に誰かが紹介していた気がする」というような、本に対するほんやりとした記憶だろう。そのときのビブリオバトルを見ていた人にとって、そこで紹介された本が、「数ある山積みのなかの見知らぬ本」から「誰かが好きだと紹介して印象に残った本」に変わったわけである。自分が紹介した本のことは、大抵は忘れ去られてしまうのかもしれない。けれども、もしかしたら私の発表を聞いたどこかの誰かが、その本をいつの日か手に取ってくれるかもしれない。その本とその人との間に、運命の出会いが生まれるかもしれない。そしてその一冊が、その人の人生を少しだけでも変えるかもしれない。それはとても素敵なことではないだろうか。

とはいえ、失敗したときの記憶は、その本人にはどうしても色濃く残ってしまうものである。ビブロフィリアの部員のなかにも、かつてのビブリオバトルで苦い経験をしてしまい、しばらく敬遠するようになってしまったというメンバーがいる。運営の立場で三重県の高校生ビブリオバトル大会に関わるようになってからは、参加者の高校生バトラーたちが必要以上に気持良く発表ができて、その日のビブリオバトルが良い思い出となるようにサポートしたいという気持ちが強くなった。

自分の話を、5分間も無条件で聴いてもらえるというボーナスタイムは、人生においてそうあるものではない。その場にいる人たちの貴重な5分間をもらうことになるならば、その時間を少しでも楽しいものにできれば良い。ビブリオバトルに限った話ではなく、人間関係も社会も、それくらいの接し方がちょうどよいのだと私は考える³⁷⁾。

4. 三重県における普及過程の要因(岡野)

河野が三重県の高校生ビブリオバトル大会に出場し、そこでの経験をもとに大学生以降の活動につなげた経緯と、岡野と三重県教育委員会の関係者が三重県内で高校生ビブリオバトル大会を展開してきた背景には、以下の要因があったと指摘できる。

a) 実行主体の存在(三重県教育委員会)

教育的意義を理解して高等学校教育への導入を

進め、それに対する予算措置を図るなど、ビブリオバトルの活用に積極的で、その導入目的も明確だったこと。

- b) 参加協力体制の構築(高等学校教職員)
高校生大会を開始した当時の高等学校関係者から、実施に前向きな反応を得られたこと³⁸⁾。
- c) 参加協力者の存在(高等学校生徒)
大会にバトラーとして出場してくれる生徒が、三重県内の高等学校に在籍していたこと³⁹⁾。
- d) 運営協力体制の構築(学生)
主催者である三重県教育委員会の要請に応えられる運営協力体制が、皇學館大学のなかにビブロフィリアとして既につくられていたこと。
- e) 学生による地域連携活動の奨励(大学)
学生による地域連携活動を、皇學館大学が組織として積極的に奨励していたこと。
- f) 他自治体の普及動向(全国大会主催団体⁴⁰⁾)
大学生による全国大会に続く形で、2014年度から高校生の全国大会も始まり、三重県以外の他自治体の開催情報も増加していたこと⁴¹⁾。
- g) 国の教育計画(文部科学省)
2013年に文部科学省が「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、ビブリオバトルに言及したことで、三重県における読書推進計画にも影響を与えたこと^{42), 43)}。
- h) 国語の教科書への掲載(出版社)
2016年度の改訂を機に、ビブリオバトルが数社の国語の教科書や教員用指導書に掲載されるようになったこと。
- i) ビブリオバトル普及委員会(業界団体)
2010年にビブリオバトル普及委員会が設立されており、2011年から岡野がそのメンバーの一人として関わっていたこと。

ビブリオバトルに限った話ではないが、何らかの取り組みが広まる過程では、それを普及する側と普及される側が、同じ場所・同じタイミングで交流し、相互に協働することによって実現に至るものである。三重県の場合、上記の関係者・関係機関が、それぞれの立場から学校教育へと応用可能なビブリオバトルの特徴に期待し、大会の実現に至るまで、相互の働きかけがあったと言えるだろう。

5. おわりに

本稿で取り上げた三重県の高校生ビブリオバトル

大会の事例をもとに、二つの観点から結論を述べる。

A) 特定地域を対象としてビブリオバトル大会を教育目的で実施することの意義

一つ目は、県大会を毎年継続的に開催することによって、高校生の活動目標となる発表の機会がつけられることである。登壇して発表できる場を持つ力は、大会を継続して実施するごとに徐々に大きくなっており、三重県大会への出場を目指す生徒側はもちろんのことながら、生徒指導にあたっている教職員側の意識にも変化が見られるようになってきている。三重県大会を始めた初期の頃には、お試し感覚で参加する様子も見られたが、定期的な開催が続いている今日では、既にそういった状況を抜け出し、三重県大会という発表の場を活用することに、より意識的かつ積極的になってきている。また、三重県大会は、「全国高等学校ビブリオバトル」に出場するための県予選会も兼ねているため、より上のステージを目指すための通過点としても機能している。

二つ目に、ビブリオバトルは公式ルールのもとに同一形式で実施されるため、その教育的効果は高等学校卒業以降も含めて、長い目で見ることができる。そもそも教育というものは、小中高等学校での学習から大学進学以降の学びに至るまで、一生を通じた長い時間をかけて行われるものである。高校生として過ごす3年間は、成長過程のうちのわずかな期間でしかない。ビブリオバトルの大会出場をきっかけとして、継続的な読書と発表の習慣を身につけて高等学校を卒業する生徒もでてきている⁴⁴⁾。大学への進学や卒業して社会人となって以降も含めて、ビブリオバトルとどのように関わり続けるのかという期待も、将来にわたって長く残されることになる⁴⁵⁾。

B) 継続的かつ安定的に高校生ビブリオバトル大会を運営するための課題

一つ目に、都道府県レベルの大会開催のための安定的な予算を確保することである。これは都道府県レベルの大会の主催を、どの団体が請け負うかということとも通じるが、一般的には各都道府県の教育委員会がその役目を担うことが多い。都道府県や市町村における「子供読書活動推進計画」の策定が進んでおり、その計画のなかにビブリオバトルという文言が盛り込まれている状況を考えても、十分な予算を配分する対応が自治体には期待されている⁴⁶⁾。

二つ目に、各高等学校での継続的な取り組みが求められる。高校生として過ごす期間はわずか3年間で短いため、その期間のなかでビブリオバトルに関心を持ち、ビブリオバトルの大会出場を目指すように、教職員が生徒を導いていくことが期待される。都道府県大会への出場実績を持つ高等学校も徐々に増えてきたが、先輩から後輩の生徒へとつなぐ形で、できる限り継続的な参加を目指すことも必要だろう。

三つ目に、各市町村レベルでのビブリオバトルの導入も積極的に進めることである。都道府県の教育委員会は高校生大会の主催を担っているが、小中学校においては各市町村の教育委員会の管轄となってくる。市町村レベルでの「子供読書活動推進計画」も昨今では整備が進んでおり、計画のなかにビブリオバトルを記載している事例も増えてきたが、小中学生の頃からビブリオバトルに親しんでいる児童・生徒が増えることにより、将来的な高校生大会・大学生大会のレベル向上へとつながっていくだろう。

四つ目に、高校生大会の進行や運営に、誰が関係するのかを検討する余地も残されている。たとえば三重県の場合は、地元の大学である皇學館大学ビブロフィリアのメンバーがその役目を担当している。これは出場する高校生バトラーにとって、教職員よりも年齢の近い大学生が司会進行の役目を担ったほうが、発表の緊張感が和らぐだろうという効果も期待していたことである。昨今では大学として地域連携活動の取り組みが期待されるようになっている状況もあり、各都道府県単位での高大連携の形を教育委員会を中心に進めていくことも必要だろう。

注

- 1) 谷口忠大『ビブリオバトル：本を知り人を知る書評ゲーム』文藝春秋、2013、232p.
- 2) 同上.
- 3) ビブリオバトル普及委員会「ビブリオバトル首都決戦2010」2010-. <<http://shuto11.bibliobattle.jp/2010nian-da-huino-ji-yi>>. [引用日：2020-07-25]
- 4) IRI 知的資源イニシアティブ「Library of the Year 2012」2012. <<https://www.iri-net.org/loy/loy2012/>>. [引用日：2020-07-25]
- 5) 文部科学省「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」2013. <https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/05/1335078.htm>. [引用日：2020-07-25]
- 6) みらいぶプラス／河合塾「全国高校ビブリオバトル2014」2014-2015. <<https://www.milive-plus.net/全国高校ビブリオバトル2014/>>. [引用日：2020-07-25]
- 7) ビブリオバトル普及委員会「ビブリオバトル・シンポジウム2014」2014. <<http://sympo14.bibliobattle.jp/>>. [引用日：2020-07-25]
- 8) 生駒ビブリオ倶楽部「第1回全国大会 in いこま」2015. <<https://ikomabiblio.jimdo.com/japan-1/第1回全国大会inいこま>>. [引用日：2020-07-25]
- 9) たとえば、『新編新しい国語3』（東京書籍）のなかに「ビブリオバトルをしよう」という教材が掲載されている。
- 10) 高橋松之助記念顕彰財団「第10回高橋松之助記念「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」受賞者決定のお知らせ」2016. <<http://www.takahashi-award.jp/award/10/jyusyo.html>>. [引用日：2020-07-25]
- 11) ビブリオバトル普及委員会「Bibliobattle of the Year」2016-. <<http://www.bibliobattle.jp/bibliobattle-of-the-year>>. [引用日：2020-07-25]
- 12) 活字文化推進会議「全国中学校ビブリオバトル決勝大会スケジュール」2018-02-27. <<https://katsuji.yomiuri.co.jp/archives/2405>>. [引用日：2020-07-25]
- 13) 初期の大会(B～D)については、ゲストによる講演会も併せて実施されている。大会予算の縮小により、E以降には実施されなくなっている。
- 14) Aのみ大会の名称が「倉田山決戦」となっているのは、試験的導入の地域版のためである。「倉田山」は皇學館大学のキャンパスがある土地の名称である。
- 15) それぞれの地域での実施運営体制が軌道に乗るまでは、「高校生ビブリオバトル三重決戦」の県内予選会についても三重県教育委員会が主催・運営を行っていた。三重県教育委員会の要請により、ビブロフィリアの学生メンバーも、予選会の司会・運営のために三重県内各地を訪れていた。ただし、中勢地域に関しては独自の実施運営体制がつくられず、三重県大会の開催と併せる形で、三重県教育委員会が運営主体のまま現在まで続いている。
- 16) 高校生大会の仕組みをつくり上げてきた伊野氏が異動によって三重県教育委員会を離れたため、2016年度からは担当者が後任の山田征子氏に、2018年度からは小西綾氏に、2019年度からは福岡信吾氏に、2020年度からは濱口啓志氏にそれぞれ変更となっている。
- 17) 岡野裕行「皇學館大学におけるビブリオバトルの導入と展開」『ビブリオバトル入門：本を通して人を知る・人を通して本を知る』情報科学技術協会、2013、p. 32-36.
- 18) このときに登壇したバトラーは、Aの研究部会の顔ぶれとほぼ一致する。
- 19) 皇學館大学の保護者会での実施は、Bの授業でのビブリオバトルの様子を見学してくれた教務担当職員の企画と後押しによるものである。
- 20) ビブロフィリア「ビブロフィリア公式ブログ」2012-. <<http://bibliophilia-ku.blogspot.com/>>. [引用日：2020-07-25]

- 21) ビブリオバトル普及委員会「ビブリオバトル首都決戦2012」2012. <<http://shuto12.bibliobattle.jp/>>. [引用日：2020-07-25]
- 22) ビブロフィリア「倉陵祭ビブリオバトル活動報告」2012-11-09. <<http://bibliophilia-ku.blogspot.com/2012/11/blog-post.html>>. [引用日：2020-07-25]
- 23) 団体設立申請を行ってから2か月後に新サークルとして承認されたが、これ以降の新団体設立は、継続性を見るために「2・3年程度の活動実績がある団体」へと内規が変更されたため、その時点でまったく活動実績のなかったビブロフィリアが即座に大学公式団体として承認されたのは、学内的にはぎりぎりのタイミングであった。
- 24) 岡野裕行「ビブリオバトル東海決戦2013の開催を終えて」『書標：ほんのしるべ』no. 417, p. 28-29.
- 25) ビブロフィリア「商店街ビブリオバトルレポート」2013-11-20. <<http://bibliophilia-ku.blogspot.com/2013/11/2013syoutengaibbrp.html>>. [引用日：2020-07-25]
- 26) 皇學館大学「本学ビブリオバトルサークル「ビブロフィリア」が三重県総合博物館でビブリオバトル開催」2014-10-06. <https://www.kogakkan-u.ac.jp/campuslife/cd_archives/p07detail.php?mdid=2537>. [引用日：2020-07-25]
- 27) ビブロフィリア「伊勢河崎一箱古本市と倉陵祭のお知らせ」2015-10-28. <<http://bibliophilia-ku.blogspot.com/2015/10/blog-post.html>>. [引用日：2020-07-25]
- 28) 皇學館大学「地域連携：おかげキャンパスプロジェクト」2013-2019. <https://www.kogakkan-u.ac.jp/cooperation/rc_main.php>. [引用日：2020-07-25]
- 29) 交通費などの必要経費については、三重県教育委員会の予算にて行っている。
- 30) 2011年4月から皇學館大学に着任するに伴い、2011年3月いっぱいまで非常勤講師を退職したため、相模女子大学で実施したビブリオバトルは、このときの1回のみである。
- 31) 情報メディア学会「報告：第10回研究大会が開催されました」2011. <http://www.jsims.jp/kenkyu-taikai/10th_report.pdf>. [引用日：2020-07-25]
- 32) 加入を促すメッセージが谷口氏から直接に届いたことがきっかけである。2015年度以降、初代代表の谷口氏から引き継いで代表理事になっているが、当初はそういった状況になることはまったく想定せずに入会している。
- 33) ビブリオバトルはその手軽さや楽しさから、学生による地域連携活動に応用できると設立当初から構想している。
- 34) これ以降、公共図書館・学校図書館の関係者向けのビブリオバトル講演会講師を、主に東海地域を中心として随時担当するようになる。
- 35) 河野が2年生に進級して以降は同学年の部員も増え、さらに下の学年も安定して入部している。
- 36) ビブリオバトル普及委員会「全国大学ビブリオバトル2019」2019. <<http://zenkoku19.bibliobattle.jp/>>. [引用日：

岡野、河野：三重県における高校生ビブリオバトルの参加側と普及側の立場から見てきたこと

- 2020-07-25]
- 37) 河野は2019年11月にビブリオバトル普及委員会へ入会した。2020年6月からビブリオバトル普及委員会理事に就任し、全国的な普及活動を支える立場にもなっている。
- 38) この頃はまだ国語の教科書にも掲載されていない時期だが、高等学校の校長会でも前向きに検討されたことで、実現に向けて一気に話が進んだ。
- 39) それぞれの開催時に高校生の年齢だったというタイミングのめぐり合わせもあるが、「ビブリオバトルというゲームを知っている」「ビブリオバトルを学内でやってみる」とこと、「他校の生徒と一緒にビブリオバトルの大会に出る」とことは、参加するためのハードルが大きく異なる。
- 40) これには、東京都(2010～2013年)、活字文化推進会議(2014年～)、奈良県生駒市(2015年～)などが該当する。
- 41) 三重県大会を勝ち抜いて全国大会に出場するという道筋がつくられたことで、地方大会としての位置づけもできるようになった。
- 42) 2013年の国の読書推進計画を受け、三重県では2015年の「第三次三重県子ども読書活動推進計画」からビブリオバトルを文言に盛り込んでいる。
三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課「第三次三重県子ども読書活動推進計画」2015. <<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000378764.pdf>>. [引用日：2020-07-25]
- 43) 文部科学省は、2018年に策定した「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」でもビブリオバトルについて言及している。
- 44) たとえば「全国大学ビブリオバトル2017」でグランドチャンプ本を獲得した広島大学1年(当時)の島田雄大氏は、三重県立津西高等学校の出身で高校2年生(当時)のときに三重県の高校生ビブリオバトル大会と「全国高等学校ビブリオバトル2014」に出場している。
ビブリオバトル普及委員会「全国大学ビブリオバトル2017～首都決戦～」2017. <<http://zenkoku17.bibliobattle.jp/>>. [引用日：2020-07-25]
みらいぶプラス「全国高校ビブリオバトル2014」2015. <<https://www.milive-plus.net/全国高校ビブリオバトル2014/>>. [引用日：2020-07-25]
- 45) 高校生の全国大会に出場した生徒が、大学生の全国大会にも勝ち上がって出場してくる学生になっている事例も目立つようになっている。
岡野裕行「新年のご挨拶2018年」2018. <<http://www.bibliobattle.jp/home/newyear2018>>. [引用日：2020-07-25]
- 46) 文部科学省「都道府県及び市町村における子供読書活動推進計画の策定状況について」2020-06-02. <https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/05/1417045_00001.htm>. [引用日：2020-07-25]